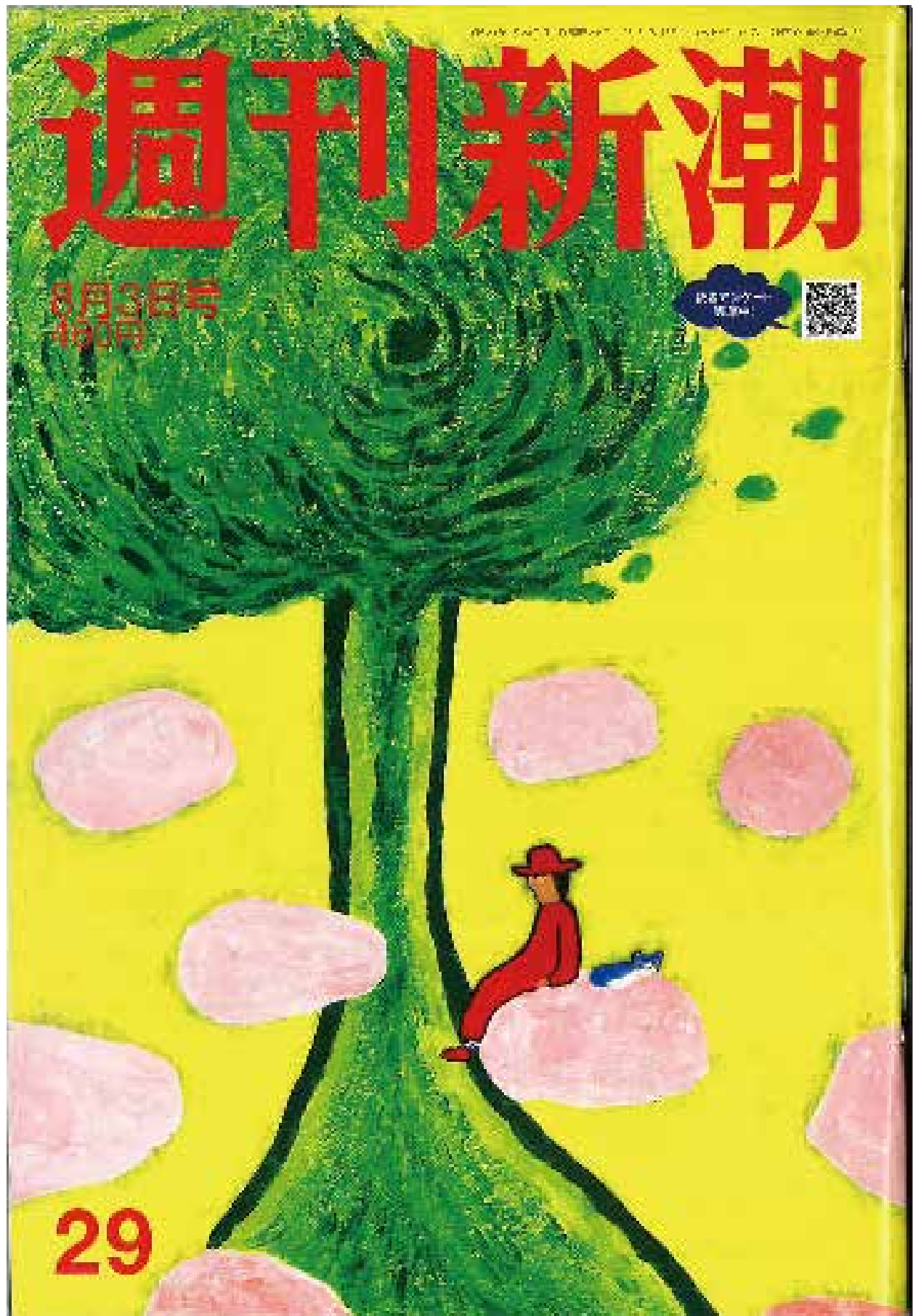


週刊新潮8/3号7月27日発行の

『プロフェッショナルドクターによる難症例の眼科手術第4回』に、

当院の院長 浅見哲先生が取り上げられました。 8/3号（2023年7月27日発売）



プロフェッショナルドクターによる難症例の眼科手術

浅見眼科手術クリニック

愛知県・名古屋・大府 JR「共和」駅徒歩1分

2021年の夏に開院した専門クリニックに聞く、今回は、白内障手術後の目のトラブルをテーマに、年間約1300件もの眼科手術を執刀する浅見哲院長にお話をうかがった。



院長
浅見 哲
Tetsu Asami

名古屋大学医学部附属病院の医局長や県内有数の眼科専門病院の副院長などを歴任し、無数の手術を手がけてきた浅見院長。昨年1年間で約1300件もの手術を自ら執刀しているが、緑内障や網膜剥離など難易度もリスクも高い患者を受け容れる姿勢に、地域の医療機関から大きな信頼が集まっている。

症例 04

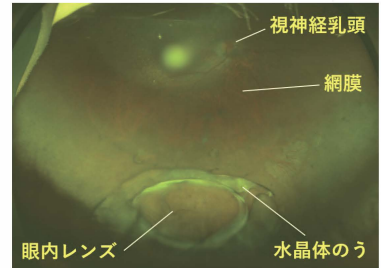
愛知県在住
H・Kさん(75歳・男性)



患者は75歳の男性。約10年前に白内障の手術を受けて以降、視力には特に不自由なく暮らしていたが、ある日突然、視界が大きくぼやけるようになった。近所の眼科を受診すると、眼内レンズ脱臼を起こしており、ピントがまったく合わなくなっていたことが分かった。同クリニックでは対応困難だったため、その場で浅見眼科手術クリニックの紹介を受け、2022年の6月に来院。

白内障手術後の快適な視界がある日突然ピンボケに？

糖尿病網膜症、新生血管緑内障、網膜剥離。当シリーズでは過去3回にわたり目の難症例を扱ってきたが、今回ご紹介する白内障はもともと身近な存在だ。目の水晶体が白く濁って視力が低下する病気で、その大半は加齢が原因。父母や祖父母が罹患し、手術を受けた経験をお持ちの方も多いただろう。手術は、濁った水晶体を碎いて取り除き、代わりに人工の眼内レンズを挿し込む方法が一般的。これだけを聞く



眼内レンズ脱臼の眼底写真。眼内レンズが水晶体嚢に包まれた状態で、硝子体の中に落ちて網膜上に乗っていた。

術の中でも難易度は高くない。技術も機器も大きく進歩した現代では短時間で手術が可能で、点眼麻酔で痛みもほとんど感じない。手術後は1〜2か月で裸眼での視力が安定し、それ以降は快適な視界を取り戻すことができる。本症例の患者も約10年間にわたり見え方は正常だったが、いきなり視界全体がピンボケに。浅見院長によれば、当時の手術に問題はなかった。「眼内レンズは水晶体嚢という透明な袋の中に入れます。この方の場合も正しく挿入されていたのですが、来院された時は水晶体嚢ごとずれていました」

眼内レンズが外れた原因はロープに溜まった埃だった

こうした状態を「眼内レンズ脱臼」と呼ぶ。特に強く目を擦ったり、叩いたりしたわけではないのに、なぜレンズが外れてしまったのだろうか。水晶体嚢は、チン氏帯と呼ばれる糸状の組織で支えられている。水晶体を固定するロープのような役割を持つこの組織

は、病気や加齢で力が弱まり、徐々に切れていくのだという。本症例の患者は完全に外れており、眼内レンズが硝子体の中に落下した状態だった。もちろん取り出して新しいものを入れ直すことになるが、水晶体嚢そのものがないため、別の方法で固定しなければならぬ。「眼内レンズには2本の支持部分があるので、強膜(白目)に埋め込みます。以前は直接縫い付ける縫着術が主流でしたが、近年は新たな術式が開発されて、比較的容易になりました」(浅見院長)

浅見眼科手術クリニック

<https://asamiganka.com/>



スマートフォンをご利用の方はこちらよりアクセス

診療時間・休日についてはHPでご確認ください

所在地 ◆ 愛知県大府市東新町2-165
電話 ◆ 0562-46-7700



【院名の意味】「手術」の2文字を院名に入れるのは、院長が半生をかけて積み上げた経験と技術をひとりで多くの患者に届けたいという浅見院長の想いの表れ。

だ。古いタイプの眼内レンズは素材が固いことがあり、中で切ったり折り畳んだりすることができないため、切開創を大きくしないと取り出せないのだ。大きく切開するほど虹彩が切開創から脱出しやすくなるため、熟練の眼科医を選ぶべき」と浅見院長。なお、この患者は、術前の検査の結果「落屑(らくせつ)症候群」と診断されている。目の中で埃のような物質が作られて虹彩や水晶体嚢に付着する病で、落屑がチン氏帯に絡みつくると糸が切れやすくなる。本症例で眼内レンズ脱臼を起こしたのは、この病気が原因だった。「落屑症候群と診断されている方は、ややリスクが高まると言えます。一般の白内障手術でも、途中でチン氏帯が切れると碎いた水晶体が目奥の硝子体の中に落ち、かいつらを取り出した後に再手術といった面倒が発生しかねませんので、熟練医に相談されることをおすすめします」